

I 計画策定について

計画策定の背景・目的

- 都市や公共交通をとりまく環境がめまぐるしく変化中、本市では、移動利便性の向上や道路・交通空間の人への開放、ゼロカーボンシティの先導により、Well-Beingの向上や都心エリアの魅力向上による新たな都市ブランドの構築をめざし「SMI（堺・モビリティ・イノベーション）プロジェクト（素案）」を令和3（2021）年8月に公表しました。
- また、当該素案を分かりやすく解説したものと、「SMIプロジェクト～ポイントとめざすべき方向性～」を令和4年5月に公表しました。
- また、令和5（2023）年5月には、SMIプロジェクトを包含し、堺都心部の活性化に向けた取組の方向性を示すものとして、「堺都心未来創造ビジョン」を策定しました。
- 「（仮称）SMI都心ライン等導入計画」は、SMIプロジェクトのうち、堺都心部における東西方向の骨格軸を形成するSMI都心ラインに加え、面的な移動環境の構築を図る次世代モビリティの活用、都市を丸ごとサービスするCity as a Serviceといった、SMI都心ラインに関連する取組について、内容や方向性などを具体化するものです。

対象エリア

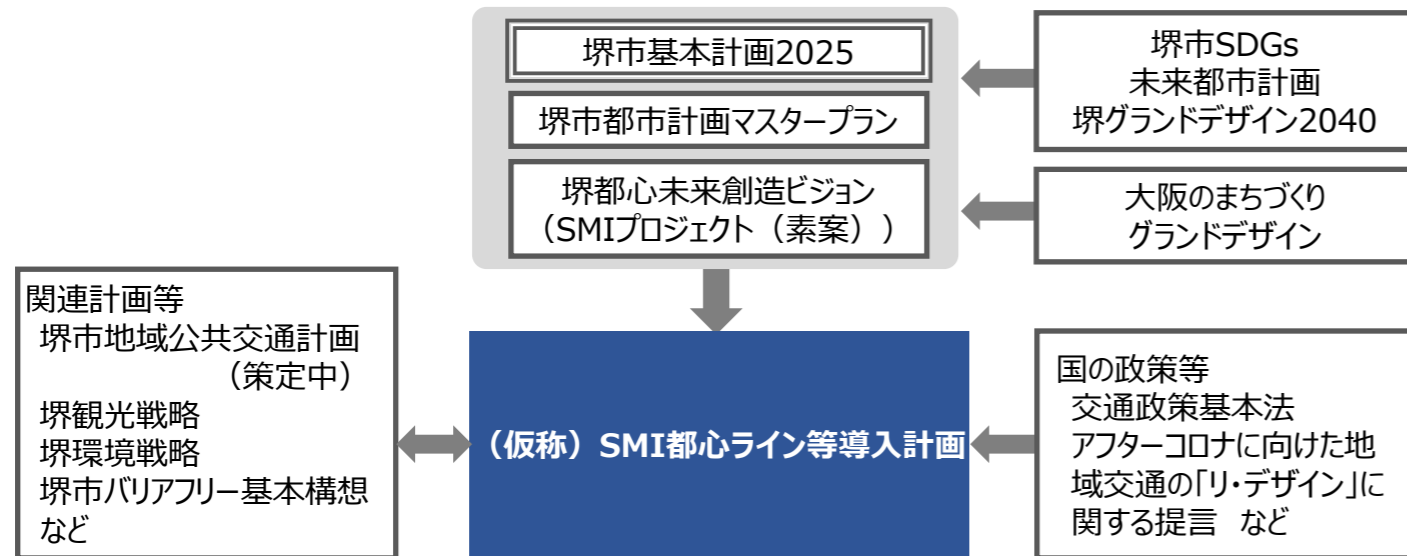
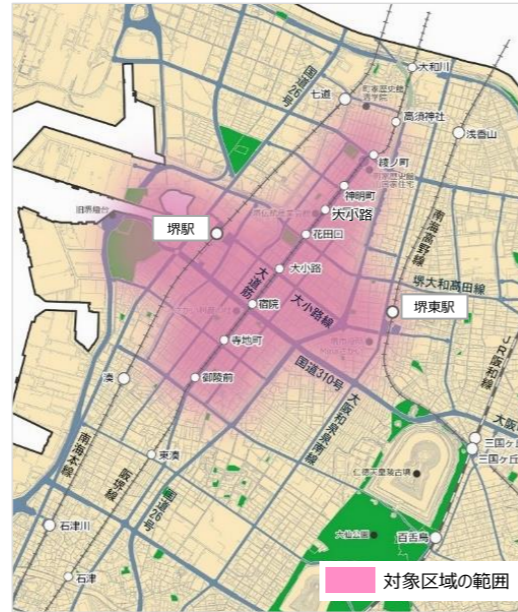
- 堺都心部（右図参照）

目標年次

- 令和12（2030）年度を目処として、「（仮称）SMI都心ライン等導入計画」を作成しました。
- 以後、適宜見直しを行いバージョンアップを図ります。

計画の位置づけ

- 本計画は、令和3（2021）年8月公表の「SMIプロジェクト（素案）」を踏まえた計画です。
- 「堺市基本計画2025」や「堺市都市計画マスタープラン」、「堺都心未来創造ビジョン」を上位計画とし、「堺市地域公共交通計画」などの関連計画と整合を図ります。



上位計画及び関連計画

上位計画	堺市基本計画2025	重点戦略の施策として、「人が集う魅力的な都心エリアの形成と新たな交通システムの確立」や「ゼロカーボンの推進」をあげています。
	堺市都市計画マスタープラン	都心の拠点整備の方針の一つに「都心の移動環境の充実」をあげ、移動環境の向上や楽しく回遊できる歩行者空間の形成などを図ることにしています。
	堺都心未来創造ビジョン	取組の方向性の一つを「魅力を結ぶ」とし、公共交通軸の強化や次世代モビリティ等の活用による、便利、快適かつ面的な移動環境の形成を図ることにしています。
関連計画	堺市地域公共交通計画 (策定中)	基本方針として、多様な関係者の連携・協働の下、持続可能な公共交通ネットワークの形成と利用しやすい移動サービスの充実に取り組むことにしています。
	堺観光戦略	「重点エリア（大仙公園エリア、環濠エリア）の取組」として、MaaS、次世代モビリティを活用した周遊促進などをあげています。
	堺環境戦略	施策の基本的な方向性として、新たな交通システムの導入やMaaSの普及展開、環境にやさしい自動車の導入拡大をあげています。
	堺市バリアフリー基本構想	基本理念を「みんなが生活しやすく安全・快適で活力のある堺へ」としています。

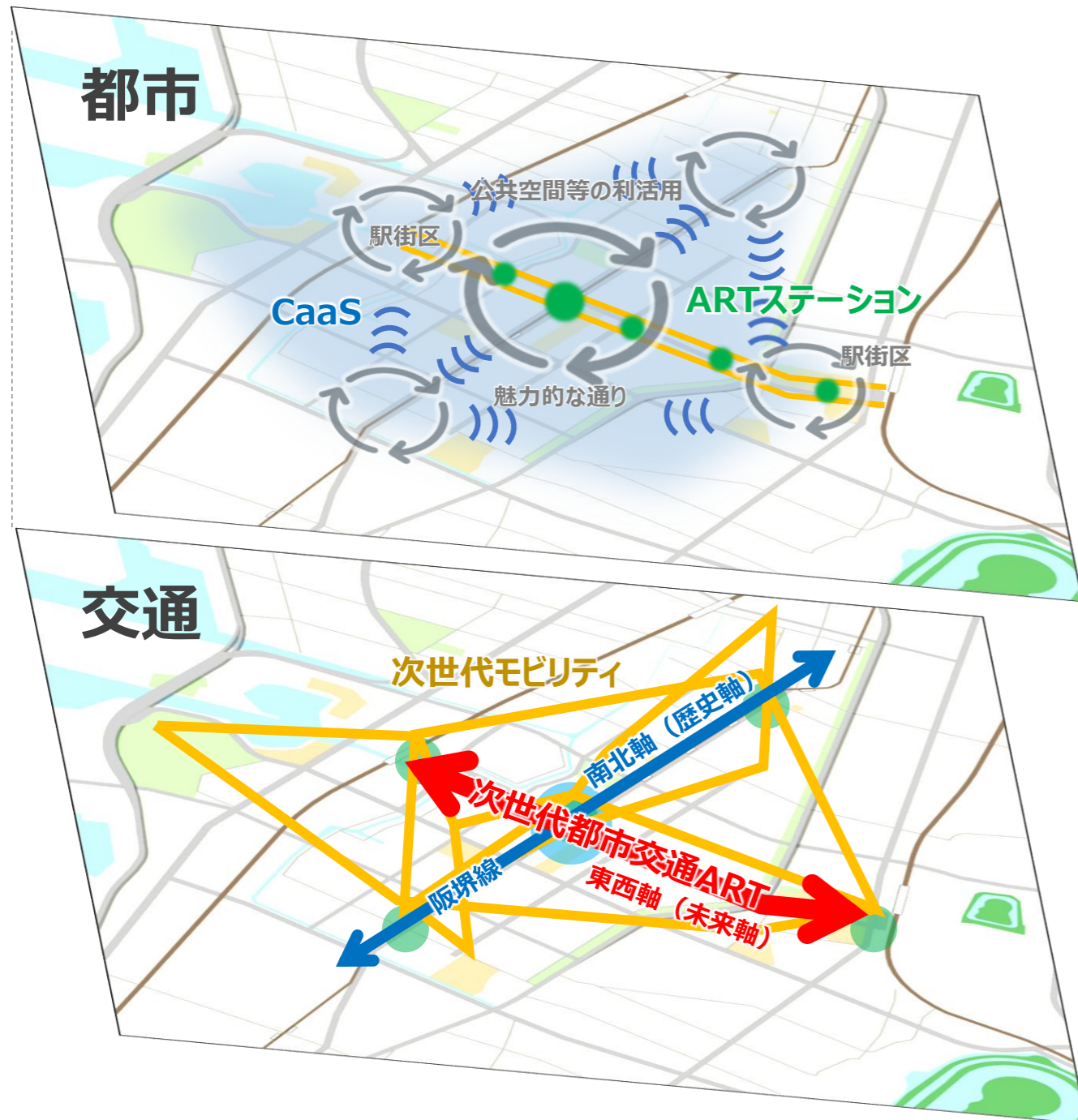
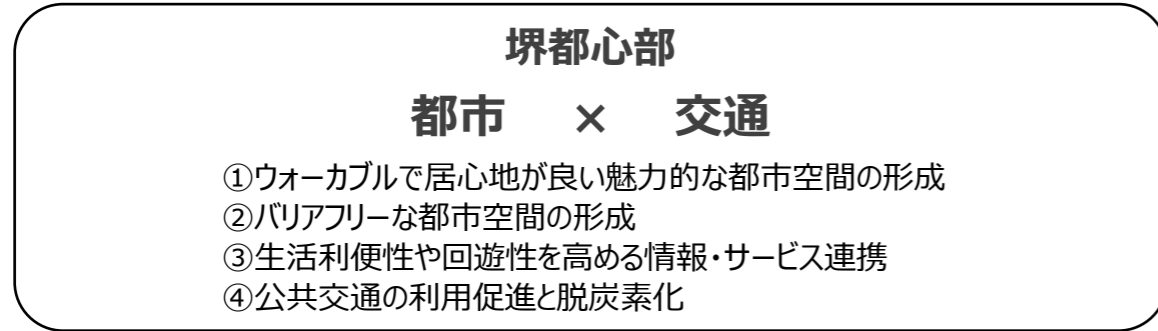
II 堺都心部や地域公共交通を取り巻く現況・課題

項目	現況	課題
人口減少・高齢化に対応した堺都心部の形成	本市の人口は減少傾向、高齢者の総人口に占める割合は令和12（2030）年には約3割に達し、令和22（2040）年には約3分の1を超えると予測されます。	高齢者をはじめとしたすべての人が快適・便利かつ安全に過ごすことができる都市空間や都市環境の形成に取り組むことが必要です。
堺都心部の活性化	堺都心部の事業所数は減少傾向、地価はバブル崩壊後に低迷したままです。	今ある地域資源を上手く活用するほか、今後の新たな取組などと連携し、堺都心部の活性化が必要です。
大規模なイベントや開発	令和7（2025）年に大阪・関西万博の開催、令和13（2031）年になにわ筋線の開業が予定されています。	大阪・関西万博の開催やなにわ筋線開業の機を捉え、堺都心部の誘客につなげるのが重要です。
地域公共交通の維持・確保	令和6（2024）年4月以降の時間外労働の年間上限規制導入により、バス運転手不足は深刻となり、路線や運行本数の維持が困難になると想定されます。	先進技術の活用を含め、地域公共交通の利便性や快適性の向上などにより、地域公共交通の維持・確保につなげるのが重要です。
脱炭素化の促進	令和32（2050）年カーボンニュートラル実現に向け、CO2排出量の約5割を占める民生・運輸部門の対応が急務です。	地域公共交通における脱炭素化について、先導的に取り組むことが必要です。

Ⅲ 堺都心部におけるSMIプロジェクトの基本方針

未来を見据えて常に挑戦

- 交通という切り口から、環境、健康福祉、観光、産業振興など様々な分野にわたり、堺都心部の魅力を大きく向上させ、堺を大きく発展させるため挑戦
- 新たな都市ブランドの確立や、公共交通の維持・確保、ゼロカーボンシティにつなげる



Ⅳ 取組の方向性

SMIプロジェクトのめざす方向性

① ウォーカブルで居心地が良い魅力的な都市空間の形成

- 公共交通の快適性向上や、交通事故などのリスク低減 <ART車両>
- 日陰や休憩スポットなどの創出 <ARTステーション>
- 駅前だけでなく環濠エリアなど大小路筋の活性化 <ART車両 ARTステーション>
- 点在する地域資源をつなぐ移動手段の提供 <ARTステーション 次世代モビリティ>

② バリアフリーな都市空間の形成

- 障害者を含め、すべての人が利用しやすい公共交通の実現や移動手段の提供 <ART車両 ARTステーション 次世代モビリティ>

③ 生活利便性や回遊性を高める情報・サービス連携

- 交通や観光、買い物、健康、子育て、安全・安心などに関するわかりやすい情報発信 <ART車両 ARTステーション CaaS>

④ 公共交通の利用促進と脱炭素化

- 公共交通の利用促進と電動化によるCO2排出削減 <ART車両 ARTステーション 次世代モビリティ CaaS>

※ARTは、Advanced Rapid Transit（次世代都市交通）の略
 ※ARTステーションは、次世代都市交通（ART）の乗降場所

SMI（堺・モビリティ・イノベーション）プロジェクト
（仮称）SMI都心ライン等導入計画（骨子案）



V SMI都心ライン及び関連取組

ART車両（SMI都心ライン）

①ウォークラブルで居心地が良い魅力的な都市空間の形成

方向性	課題	方策	取組内容
公共交通の快適性向上や、交通事故などのリスク低減	居心地が良い都市とするためには公共交通においても快適性を求めることが必要	自動運転技術等、常に新技術を活用し、急発進や急ブレーキをなくし、快適な乗り心地を実現	○LiDARやAIカメラ、各種センサー等の必要な装備を活用し、自動運転レベル2以上を実現、将来的にはレベル4をめざす 【個別取組詳細（1）】
	居心地がよい魅力的な都市とするためには、交通事故などのリスク低減が必要	路車間通信など安全技術の導入により、事故を未然に防止し、安全な運行を実現	○道路に設置したセンサー、信号や相手車両等との通信により、事故を未然に防止し、安全でスムーズな運行を実現する 【個別取組詳細（2）】
駅前だけでなく環濠エリアなど大小路筋の活性化	大小路筋の魅力向上が重要	統一的なデザインによりわかりやすさや魅力を向上	○ART車両とARTステーションの統一的なデザインにより東西交通軸の魅力を強化する 【個別取組詳細（3）】

②バリアフリーな都市空間の形成

方向性	課題	方策	取組内容
障害者を含め、すべての人が利用しやすい公共交通の実現や移動手段の提供	バリアフリーな都市空間の形成のため、すべての人が利用しやすい交通の実現が必要	自動運転技術を活用し、プラットフォームに隙間なく停車させ、すべての人の一人での乗降を実現	○磁気マーカやターゲットラインペイント等を活用し、プラットフォームに隙間なく正着できるものとする 【個別取組詳細（1）】
	現在のバスは、車いす等の利用者が一人で乗降できず、また時間や手間を要する	車いす・ベビーカーの乗車スペース確保	○車いすやベビーカーが乗車でき、車内で固定できる車両を採用する 【個別取組詳細（4）】
		すべての人にわかりやすい案内を実施	○わかりやすい情報案内を実施する 【個別取組詳細（5）】

③生活利便性や回遊性を高める情報・サービス連携

方向性	課題	方策	取組内容
交通や観光、買い物、健康、子育て、安全・安心などに関するわかりやすい情報発信	バスを利用しやすくするため、次停留所や乗換案内などの情報をわかりやすく提供することが必要	すべての人にわかりやすい案内を実施	○わかりやすい情報案内を実施する 【個別取組詳細（5）】

④公共交通の利用促進と脱炭素化

方向性	課題	方策	取組内容
公共交通の利用促進と電動化によるCO2排出削減	脱炭素社会形成に向け、運輸部門におけるCO2排出削減が重要	電動車両を採用するなど電動化を先導、排気ガスや臭いを削減	○環境負荷の少ない電動車両を採用する 【個別取組詳細（6）】
	公共交通の利用促進のため、次停留所や乗換案内などの情報をわかりやすく提供することが必要	すべての人にわかりやすい案内を実施	○わかりやすい情報案内を実施する 【個別取組詳細（5）】

ARTステーション（SMI都心ライン）

①ウォークラブルで居心地が良い魅力的な都市空間の形成

方向性	課題	方策	取組内容
日陰や休憩スポットなどの創出	大小路筋に日陰や休憩スポットを創出することで、ウォークラブルで居心地の良い空間とすることが重要	風雨や直射日光を凌ぐ上屋、休憩できるベンチなどを設置し、快適な待合環境を創出	○待合時に風雨や直射日光を防ぐ屋根・ベンチ、パネルなどを配置する 【個別取組詳細（7）】
駅前だけでなく環濠エリアなど大小路筋の活性化	大小路筋の魅力向上が重要	ベンチやテーブル等のパークレット空間を整備し、交流・憩いの空間を整備	○道路空間を活用し、憩い・集う場としてベンチやテーブルを配置し魅力的なパークレット空間を創出する 【個別取組詳細（8）】
		統一的なデザインによりわかりやすさや魅力を向上	○紀州街道と竹内街道が交差する大小路交差点において、東西南北の公共交通の乗継利便性の向上、オープンスペースの設置など、人と公共交通が主役となる空間をめざす 【個別取組詳細（9）】
点在する地域資源をつなぐ移動手段の提供	点在する地域資源をつなぐ移動手段により回遊性を高めることが重要	次世代モビリティ等への乗換場所を整備し、多様な移動ニーズに応じたモビリティを提供	○ART車両とARTステーションの統一的なデザインにより東西交通軸の魅力を強化する 【個別取組詳細（3）】
			○次世代モビリティの活用にあわせ、ARTステーションにポートを設置する 【個別取組詳細（7）】

②バリアフリーな都市空間の形成

方向性	課題	方策	取組内容
障害者を含め、すべての人が利用しやすい公共交通の実現や移動手段の提供	バリアフリーな都市空間の形成のため、すべての人が利用しやすい交通の実現が必要	自動運転技術を活用し、プラットフォームに隙間なく停車させ、すべての人の一人での乗降を実現	○車両が正着しやすく、また車両と車両床面高さを揃え、バリアフリーに乗降できるプラットフォームを設置する 【個別取組詳細（7）】
		すべての人にわかりやすい案内を実施	○わかりやすい情報案内を実施する 【個別取組詳細（5）】

③生活利便性や回遊性を高める情報・サービス連携

方向性	課題	方策	取組内容
交通や観光、買い物、健康、子育て、安全・安心などに関するわかりやすい情報発信	堺都心部の回遊性を高めるには豊富な地域資源や移動手段などの情報発信が必要	デジタルサイネージ等を活用し交通や地域に関する情報を発信、スマートフォンへの情報の持出など、すべての人にわかりやすい案内を実施	○わかりやすい情報案内を実施する 【個別取組詳細（5）】
			○交通や地域に関する情報を表示するデジタルサイネージを設置するほか、スマートフォンへの情報の持ち出しを可能とする 【個別取組詳細（10）】

④公共交通の利用促進と脱炭素化

方向性	課題	方策	取組内容
公共交通の利用促進と電動化によるCO2排出削減	公共交通の利用促進のため、次停留所や乗換案内などの情報をわかりやすく提供することが重要	デジタルサイネージ等を活用し交通や地域に関する情報を発信、スマートフォンへの情報の持出など、すべての人にわかりやすい案内を実施	○わかりやすい情報案内を実施する 【個別取組詳細（5）】
			○交通や地域に関する情報を表示するデジタルサイネージを設置するほか、スマートフォンへの情報の持ち出しを可能とする 【個別取組詳細（10）】

SMI（堺・モビリティ・イノベーション）プロジェクト
（仮称）SMI都心ライン等導入計画（骨子案）

次世代モビリティ等

①ウォーカーブルで居心地が良い魅力的な都市空間の形成

方向性	課題	方策	取組内容
点在する地域資源をつなぐ移動手段の提供	点在する地域資源をつなぐ移動手段により回遊性を高めることが重要	電動車いすタイプ（歩行者扱い）の次世代モビリティ等を公共交通の結節点等に配置することで、公共交通を補完し面的な移動環境を構築	○公共交通との役割分担（競合回避）・連携により、主にラストワンマイルとしての移動・回遊を支援する移動手段として、モビリティポートを拠点として活用 【個別取組詳細（11）】

②バリアフリーな都市空間の形成

方向性	課題	方策	取組内容
障害者を含め、すべての人が利用しやすい公共交通の実現や移動手段の提供	すべての人が行きたいところに行ける移動手段が重要	障害者や高齢者など、すべての人が利用しやすい移動手段として、電動車いすタイプ（歩行者扱い）の次世代モビリティ等を活用	○公共交通との役割分担（競合回避）・連携により、主にラストワンマイルとしての移動・回遊を支援する移動手段を提供 【個別取組詳細（11）】 ○快適かつ安全でデザイン性にも優れた次世代モビリティ等により、堺都心部を楽しみながら移動できる手段として、観光施設等を拠点として活用 【個別取組詳細（11）】

④公共交通の利用促進と脱炭素化

方向性	課題	方策	取組内容
公共交通の利用促進と電動化によるCO2排出削減	回遊性向上により、移動しやすい環境を構築することが必要	公共交通と次世代モビリティ等が連携することによる回遊性の向上	○公共交通の停留所（場）にモビリティポートを設置し、移動・回遊を支援する移動手段として次世代モビリティ等を提供 【個別取組詳細（11）】

CaaS（City as a Service）

③生活利便性や回遊性を高める情報・サービス連携

方向性	課題	方策	取組内容
交通や観光、買い物、健康、子育て、安全・安心などに関するわかりやすい情報発信	生活利便性や回遊性の向上には、住民や来訪者にとって、膨大な情報や様々なサービスをわかりやすく提供することが重要	堺都心部で交通や観光、買い物、健康、子育て、安全・安心などの情報・サービスを包括的に提供するCaaSを導入	○来街者の回遊性向上や住民の生活利便性向上に資する情報コンテンツを提供 【個別取組詳細（12）】

④公共交通の利用促進と脱炭素化

方向性	課題	方策	取組内容
公共交通の利用促進と電動化によるCO2排出削減	公共交通の利用促進のため、必要な情報をわかりやすく提供することが必要	堺都心部で交通や観光、買い物、健康、子育て、安全・安心などの情報・サービスを包括的に提供するCaaSを導入	○来街者の回遊性向上や住民の生活利便性向上に資する情報コンテンツを提供 【個別取組詳細（12）】

VI アクションプラン

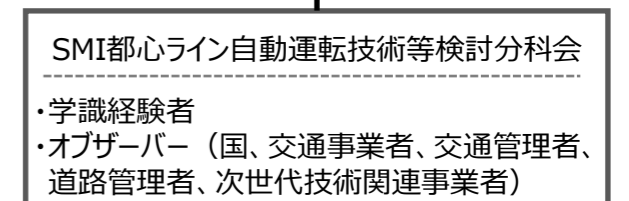
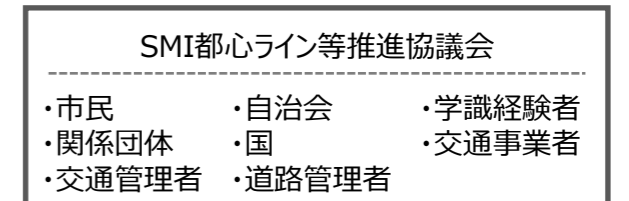
○「IV SMI都心ライン及び関連取組の方向性」にもとづく各取組の詳細について、別紙に示します。

VII スケジュール

	令和6（2024）年度	令和7（2025）年度	令和8（2026）年度～令和12（2030）年度頃
ART車両	自動運転技術の導入（レベル2～4）		
	快適な乗り心地の実現		路車間通信などによる安全な運行の実現
	バリアフリーな乗降の実現		
	バリアフリーな車両の導入・わかりやすい案内の実施		
	統一的なデザインの検討	電動車両の導入	
ARTステーション	ARTステーション（パークレット等）の段階的な整備		
	パークレット空間の暫定整備 統一的なデザインの検討	設計及び本格整備（パークレット空間・上屋等・デジタルサイネージ） ・わかりやすい案内の実施	
	次世代モビリティの活用にあわせたポートの設置		
	大小路交差点の検討		
次世代モビリティ等	次世代モビリティの導入		
	観光施設を拠点とした活用にかかる検討・実証実験・実装 モビリティポートを拠点とした活用にかかる検討・実証実験・実装		
CaaS	ニーズ把握、コンテンツの検討	情報・サービスの実験的提供	情報コンテンツの提供

VIII 推進体制・推進方策

- SMI都心ラインや関連取組の推進にあたっては、引き続きSMI都心ライン等推進協議会及びSMI都心ライン自動運転技術等検討分科会を通じて協議・調整を行いながら進めます。
- 今後、事業の推進を図るため必要に応じて、テーマ別の分科会やプロジェクトチーム等の設置、協定の締結などを行います。
- シビックプライドの醸成につなげることが重要なことから、市民が事業推進に関与できる取組を検討・実施します。



事業費

○想定概算事業費について、別途提示します。（現在、算出中）